

令和6年度（2024年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

刑 法

C日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は3枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和6年度（2024年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（各5点）

以下の語句あるいは概念を説明しなさい。解答の際は、定義だけを記述するのではなく、学説の議論状況や判例の状況など解答すべき内容を問題に応じて自ら選択し、具体的な事例を自ら設定したうえでそれぞれ解答用紙5行程度で解答すること。

- (1) 「暴行」概念（「刑法208条」と「刑法95条1項」という文言を必ず使うこと）
- (2) 「自己蔵匿教唆」の可罰性

問題2（15点）

次の事例におけるX及びYの罪責を論じなさい。ただし、住居侵入罪、強盗予備罪及び特別法違反の点は論じる必要はない。

XとYは金に困っていたため、資産家と名高いAの家に盗みに入ることにした。XはかつてAの家で掃除のアルバイトをしていたことから、2023年10月10日、Aの家の見取り図を描いてYに手渡したほか、保有していたAの家の合鍵をYに預けた。

決行日と定められた同月13日深夜、XとYがA宅近くの公園に集合した際、Yは「どうせやるんだったら盗みじゃつまらない。Aを縛り上げて小切手でも書かそうぜ」などと言って準備したロープをXに示したため、Xは「そこまでやるなんて聞いてない。さすがにAを痛めつけるとなると俺は乗れないから、お前独りでやれ。渡した物は全部返してもらうからな」と言い、Yから見取り図と合鍵を奪い返し立ち去った。

ところが、同月10日から13日の間に、YはXに内緒で合鍵のコピーを作っていたほか、見取り図を暗記しており、YはA宅に合鍵のコピーを使い侵入した後、広いA宅内を迷わずに金庫のある部屋まで辿り着くことができた。

しかしながら、Aは同月中に引っ越しを予定しており、金目の物はすべて市内の貸倉庫に移していたため、金庫の中には5000円札が1枚だけ残っている状態で、Yはその他目ぼしい物も見つけることができなかった。そのため、Yは、5000円程度で捕まっては割に合わないと考え、何も取らずにA宅を辞した。なお、Aは出張のため不在で、A宅は無人であった。

以上